

櫻咲く懷しの母校

会員の諸兄姉、元氣で御活動のことと思ひます。今年は学制改革によつて新発足をした本校の男子の最初の卒業生が、大学の課程を卒業、職業人として社会の第一線に進出した年で尚和会もよいよ男女相提携として名実共に新制高等学校同窓会としての機能を発展する段階に到達したわけです。母校の充実発展の為に、強力に協力して下さることを、この機会に御願いする次第です。

尚和会の会則が改められ、一昨年から会運営の中核が会員諸君によつて組織された。されば、わが校の活動には、上級学校への進学率を得たのは嬉しいことでした。ただ残念なのは、上級学校への進学率が低く、成績が悪いことでした。そのため、尚和会は、その役目と併せて母校の現状を知つていたたく機関として長く継続させることがあり、戦時中から戦後長

会誌二号の發行に際して

松浦良雄

会員の諸兄姉、元氣で御活動のことと思ひます。今年は学制改革によつて新発足をした本校の男子の最初の卒業生が、大学の課程を卒業、職業人として社会の第一線に進出した年で尚和会もよいよ男女相提携として名実共に新制高等学校同窓会としての機能を発展する段階に到達したわけです。母校の充実発展の為に、強力に協力して下さることを、この機会に御願いする次第です。



（或る席上で実際に聞いた話です。それはヒルマの過程を終了した同窓生と、ヨルの過程を終了した同窓生との間に横わる眼に見えない反目、シソト、偏見についての話です。特に同窓会の同窓生本位に動き過ぎるから、ヨルの同窓生だけ）

（ために積極的に働く人達には、これが特に深刻に感じられるようです。今年の尚和会の同窓生の間では、今まで現れたところ、さしあつて困るのは、さしあつて困るのは、それが特に深刻に感じられるようです。今年の尚和会が今迄のように容易に運営されなくなるということです。そんな馬鹿なことはないと反論する人達がいるかも知れませんが、こ

れは事実です。それ程、ヨルの同窓生は尚和会にどう

されました。もしも、この私はヨルの同窓生の御機嫌をとる。気持ちは毛頭あります。それどころか、上述の同窓会はあまりにもヒル

マの同窓生本位に動き過ぎ

るから、ヨルの同窓生だけ）

（で同窓会別に一つ作りたいといった願いが明らかにされました。もしも、この

私と、ヨルの同窓生の御機嫌をとる。気持ちは毛頭あります。それどころか、上述

の対立感を深める原因の半

分に対してヨルの同窓生も

責任を負わねばならないと考

えておこう。もう一つ注目すべきこと

は、この頃の尚和会が随分

若い人達の手によつて動か

されいていることです。例え

ば、名簿の編纂にしろ、こ

の新聞の編集にしろ二十才

にもならないような人達の

労苦が堆積しているのです。

勿論、他の人達の賛意と積

極的な支持がなければ出来

ないことがばかりですが、そ

れとしても彼等の働きは十

分注意されてよいでしょ

う。ところが尚和会にこれ

らの若い人達がどんどん進

出してくるにつれて、どこ

からともなく、彼等の意欲

的な動きをチエックする声

がさきやかれ始めました。

筋の通つた発言ならば耳を

かさねばなりませんが、多

くは單なる不平不満に類す

ることでしたので、彼等は

「出るクギは打たれる」と

いう一種のオマモリコトバ

を思い出して事態を静観し

（在学中、何でも悪いこと

はヨルの生徒の仕業にされ

るようになつてしましました。

（尚和会の将来を惟うな

う）

尚和会々報

所五会行東豊市佐口和権智子編集人

呼吸器科 内科 小児科 レントゲン科

阪急三国駅下車東一丁 電話豊崎77四〇四八番 東淀川区三国町九〇

内科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

科

子供の頃はお茶が嫌いで白湯ばかり飲んでいた私も、年経つにつれてお茶が好きになり、それも濃茶を好みようになつた。あの没事の中にあるところとした甘さに、えも云われぬ味を感じ、自分も年をとつたものが目当てで、葉を飲む時のように思いで、ぐつと「息」におしをしたものだ。お茶の年時代母のたでてくれる抹茶には閉口した。そばに置いてある羹かんが自分で、葉を飲む時のよさのなかしつかりはしていなかった。それにしても、自分の甘さに、えも云われぬ味を感じ、自分も年をとつたものが目当てで、葉を飲む時のように思いで、ぐつと「息」におしをしたものだ。

お茶の頃は「味のある人間」の好みで点茶の都度坐らせた。

お茶の頃は「味のある人間」というよくなことがわ

する場合は必ずといつていい位の口にしていた。私

は、この母の言葉が、この母の頃しみじみなつかしく思

われる。されど、その頃の私は、まだ記憶に残つて

いるのが「味のある人間」という言葉だ。「あの人は

文化の発達は人間をだん

機械化し職業化して行

く。これは一面仕方のない

過程ではあるが、豊かな人間味は段々と懸念され

る。あれだけ戦後人間性のではなかいかと懸念され

て、あの渋い茶を飲ませた

く。それは、これまでの

過去で今だに記憶に残つて

いるが、この頃になつて一度

聞いてみたいと思うのだ

が、他界してしまつた今は

聞くよしもない。この母の

子供の頃には「味のある人

間」というよくなことがわ

するが、反面、あまりに本能的考え方や、放埒な生活

に流れ過ぎたことも、いな

い事実だ。

戦争を契機として、人間

を再認識したことは大きな

収穫ではあつたが、ここら

へは、この母の言葉が、この

頃しみじみなつかしく思

われる。されど、その頃の私は、まだ記憶に残つて

いるのが「味のある人間」という言葉だ。

文化の発達は人間をだん

機械化し職業化して行

く。これは一面仕方のない

過程ではあるが、豊かな人間味は段々と懸念され

る。あれだけ戦後人間性のではなかいかと懸念され

て、あの渋い茶を飲ませた

く。それは、これまでの

過去で今だに記憶に残つて

いるが、この頃になつて一度

聞いてみたいと思うのだ

が、他界してしまつた今は

聞くよしもない。この母の

子供の頃には「味のある人

間」というよくなことがわ

するが、反面、あまりに本能的考え方や、放埒な生活

に流れ過ぎたことも、いな

い事実だ。

戦争を契機として、人間

を再認識したことは大きな

収穫ではあつたが、ここら

へは、この母の言葉が、この

頃しみじみなつかしく思

われる。されど、その頃の私は、まだ記憶に残つて

いるのが「味のある人間」という言葉だ。

文化の発達は人間をだん

機械化し職業化して行

く。これは一面仕方のない

過程ではあるが、豊かな人間味は段々と懸念され

る。あれだけ戦後人間性のではなかいかと懸念され

て、あの渋い茶を飲ませた

く。それは、これまでの

過去で今だに記憶に残つて

いるが、この頃になつて一度

聞いてみたいと思うのだ

が、他界してしまつた今は

聞くよしもない。この母の

子供の頃には「味のある人

間」というよくなことがわ

するが、反面、あまりに本能的考え方や、放埒な生活

に流れ過ぎたことも、いな

い事実だ。

戦争を契機として、人間

を再認識したことは大きな

収穫ではあつたが、ここら

へは、この母の言葉が、この

頃しみじみなつかしく思

われる。されど、その頃の私は、まだ記憶に残つて

いるのが「味のある人間」という言葉だ。

文化の発達は人間をだん

機械化し職業化して行

く。これは一面仕方のない

過程ではあるが、豊かな人間味は段々と懸念され

る。あれだけ戦後人間性のではなかいかと懸念され

て、あの渋い茶を飲ませた

く。それは、これまでの

過去で今だに記憶に残つて

いるが、この頃になつて一度

聞いてみたいと思うのだ

が、他界してしまつた今は

聞くよしもない。この母の

子供の頃には「味のある人

間」というよくなことがわ

するが、反面、あまりに本能的考え方や、放埒な生活

に流れ過ぎたことも、いな

い事実だ。

戦争を契機として、人間

を再認識したことは大きな

収穫ではあつたが、ここら

へは、この母の言葉が、この

頃しみじみなつかしく思

われる。されど、その頃の私は、まだ記憶に残つて

いるのが「味のある人間」という言葉だ。

文化の発達は人間をだん

機械化し職業化して行

く。これは一面仕方のない

過程ではあるが、豊かな人間味は段々と懸念され

る。あれだけ戦後人間性のではなかいかと懸念され

て、あの渋い茶を飲ませた

く。それは、これまでの

過去で今だに記憶に残つて

いるが、この頃になつて一度

聞いてみたいと思うのだ

が、他界してしまつた今は

聞くよしもない。この母の

子供の頃には「味のある人

間」というよくなことがわ

するが、反面、あまりに本能的考え方や、放埒な生活

に流れ過ぎたことも、いな

い事実だ。

戦争を契機として、人間

を再認識したことは大きな

収穫ではあつたが、ここら

へは、この母の言葉が、この

頃しみじみなつかしく思

われる。されど、その頃の私は、まだ記憶に残つて

いるのが「味のある人間」という言葉だ。

文化の発達は人間をだん

機械化し職業化して行

く。これは一面仕方のない

過程ではあるが、豊かな人間味は段々と懸念され

る。あれだけ戦後人間性のではなかいかと懸念され

て、あの渋い茶を飲ませた

く。それは、これまでの

過去で今だに記憶に残つて

いるが、この頃になつて一度

聞いてみたいと思うのだ

が、他界してしまつた今は

聞くよしもない。この母の

子供の頃には「味のある人

間」というよくなことがわ

するが、反面、あまりに本能的考え方や、放埒な生活

に流れ過ぎたことも、いな

い事実だ。

戦争を契機として、人間

を再認識したことは大きな

収穫ではあつたが、ここら

へは、この母の言葉が、この

頃しみじみなつかしく思

われる。されど、その頃の私は、まだ記憶に残つて

いるのが「味のある人間」という言葉だ。

文化の発達は人間をだん

機械化し職業化して行

く。これは一面仕方のない

過程ではあるが、豊かな人間味は段々と懸念され

る。あれだけ戦後人間性のではなかいかと懸念され

て、あの渋い茶を飲ませた

く。それは、これまでの

過去で今だに記憶に残つて

いるが、この頃になつて一度

聞いてみたいと思うのだ

が、他界してしまつた今は

聞くよしもない。この母の

子供の頃には「味のある人

間」というよくなことがわ

するが、反面、あまりに本能的考え方や、放埒な生活

に流れ過ぎたことも、いな

い事実だ。

戦争を契機として、人間

を再認識したことは大きな

収穫ではあつたが、ここら

へは、この母の言葉が、この

頃しみじみなつかしく思

われる。されど、その頃の私は、まだ記憶に残つて

いるのが「味のある人間」という言葉だ。

芸術的境地を知らないで一生終る人。理解出来て生活に追われて芸術的境地に入る事の出来ぬ人。理解は出来るが、作品は何もかないという人。つまり鑑賞する事を樂しみにして一生終る人。

時々閑を得て、芸術的境地に浸れる人。生活のすべてが芸術の境地に徹底している人。つまり芸術三昧の境涯に、身を抛げ打つている人等がある。我が皆様に希うところは、生活の中で時々閑を得て芸術の境地に浸つて樂める人である。人間生活に於ては、実用を目標とした生産的な方面が存在しなければならない事は丁度西輪の如くである。そこに生活の調和が得られるのである。この調和から割り出された生活こそ最も健全であり且つ最も幸福な人生である。物質的不満を嘗むことの出来るものは精

繪々生活



まことに、人の心外で、いつも人の前では彼女を弁護した。澄江の家へ行つたのはもう十時半頃だつた。彼女の父は商用で、その晩は帰るがどうかも解らず、彼女は一人で退屈をしていたのだ。と俺を中へ招き、俺の息の酒臭いのを知つて、一寸驚いたが別に何も言わなかつた。二人は炬燵に向ひ合つて映画の話等をしていたが俺の疲れた目は澄江の白い顎筋が妙に気になり、目をそむけようとしたが余計そちらに目を惹かれて行つた。炬燵の中で幾度も足が触れ合つた。俺は感情を抑える事が出来ず澄江を強く抱きしめた。それから俺も夢中だつた。澄江は何をされても別に逆らいもせず、俺にされるがままになつていた。

玄関の方で戸の開く大きな音がしたので、二人ともはつとした。

彼女の父親は、この時刻に何をしてやつて来たのかと怪しそうだつた。澄江が横から弁解したが、何かその言葉もきこちなかつた。俺は彼女の父親の顔もまたに見る事が出来ず、それから間もなく逃げる様にして門を出た。

冷たい夜風に吹かれながらT駅まで歩く間に、俺は澄江との間に起つた事に関しては、全く良心にやましい所はないと思つた。こう考へる事によつて、わざと平氣を装おうとしたのかも知れない。

電車に乗つてからも、その数十分間、俺は只後味の悪さを感じるだけだった。してN駅から家までは相当の距離があつたが、家に近づくにつれて、澄江の事は頭からはなれ、ただあの厳格な親父の顔と、横で親父の怒りを和らげるのに苦心している母の顔だけが、目に沁みて冷たかつた。遠慮がちに門を叩くと女中のお咲が出て来て、門を開けたが別に何も言わなかつた。その無言がかえつて俺の恐怖に油を注いだ。

入ると親父と阿母さんは茶の間に居て、入るなり「こ

私のたより

三宅淑恵

尚和会報

昭和二十七年春に高校第四期生として桜塚高校を卒業し、各人各種の進路に向つてスタートしてから早くも三年が過ぎました。同期の皆様方もそれぞれの立場で御活躍のことと存じます。

研究の為に田中千代服飾研修室に進んだ私も、この三年間の全課程を修了致しました。昨春師範科卒業してより田中千代先生の研究室の仕事のお手伝いをして居ります。先生の服飾に関する考察は次の三つのテーマより成り立っています。

1. マス・プロダクション
2. アメリカやヨーロッパの場合、既製服の良さは安く、すぐに着られるという

私のものが容易に着られる御活躍のことと存じます。

御活躍の為に田中千代服飾研修室に進んだ私も、この三年間の全課程を修了致しました。昨春師範科卒業してより田中千代先生の研究室の仕事のお手伝いをして居ります。先生の服飾に関する考察は次の三つのテーマより成り立っています。

1. マス・プロダクション
2. アメリカやヨーロッパの場合、既製服の良さは安く、すぐに着られるという

孤獨

浅香武志

袖着て

「僕は——」

武志は口ご

「——いいじやない。

「おつしやいよ」

「——そう」

「——うん、いやなんにもな

「ふられたつていうんじ

「やつぱり！」

「やつぱり！」

「——と云つて立ち上つた

「——と云つて立ち上つた</div

